第 2015-49 号

恵みと真理のニュース

2015 年 12 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 生死のせとぎわで神様は私を治療してくださり、真の人生の成功と幸福が何か悟らせてくださいました

わたしは2年前急性腎不全でブピョンのある病院で生死のせとぎわでした。当時当会長の牧師が来られ祈ってくださいました。教区長と多くの聖徒達も私のため断食もして祈ってくださいました。以後わたしは神様の恵みで癒されました。そして、今年按手執事の職分も任されました。急にかかった病気で苦しかった苦難が神様の前で高慢で御言葉に不従順で生きた私を神様は正しく信仰と従順する生活で導いてくださり、大きい福になったことを悟って神様の限りない愛を感謝を捧げます。

私の年が60歳になります。私の年でいわゆるお金持ちの家で生まれた人も多くないし、大きい挫折と苦難がなかった人もいないと思います。熱情と挑戦精神で努力して苦難を乗り越えて自分なりに成功した人も多いと思います。私もその人々の一人でした。ただ体で荒い山と海を渡って険しい峡谷を過ぎて多くの喜怒哀楽を経験して世の人々が言う成功も経験しました。そして、その全て過程の中で私を愛する神様の摂理があった事と人生の真の成功と万時が益となるのか何か悟りました。

後ろは山があって前は海があった小さい村で農業する親のもとで育ちました。夢を持って若い時故郷と離れエンジニアで名声を得て通信装備を製造する事業をして成功をしました。世のうらやましいのもなく暮らしました。91年事業を始まった時妻の強い勧めで恵みと真理教会を通い始めましたが不信者のようにお金を優先して世から得られる楽しい事を従う人生でした。

私の心は茨の道のようで御言葉を聞いてもその感動は聞く瞬間でした。深く根を下ろされない高慢と硬い心でいっぱいでした。神様が下さる清い職分も疎かにしました。神様が与える恵みと特別な奇跡を体験して熱心に主を支えて事もありましたがまもなくソドムとコモラ城であることを知らなくて世のことだけ熱心になり楽しんでいました。出エジプト過程と荒野生活で神様の働きを毎日見て経験したにも関わらず不従順したイスラエルの民の姿が私の姿でした。ある日、ふっとわたしはなぜ信仰が足りないのかと思い自分をむち打って帯を締めるのを繰返しましたが、その時だけで信仰と生活には真の変化がなかったです。経済的に余裕があるから世のことを楽しんで脂っこい食べ物を食べお酒を飲むのが安楽だと思って暮らしました。その結果それらが私には毒になり鎖になって酷い苦しみを通して初めて悟られました。当然体をこわして心も荒れ果てました。ある日予告もなく急性肺血症で昏睡状態になり脳卒血と急性腎不全まで重なって2ヶ月にかかって生死のせとぎわで意識不明の状態で驚くな体外離脱も経験しました。その切なかった瞬間を文書で全部表現できません。しかし、その危機が今の私に福だったのを後で悟りました。その危機がなかったらわたしは間違いなく今世の中でいたり酷いアルコール中毒症状で体は腐って世を恨んで死なないことを嘆いているはずです。

私を神様が救ってくださいました。当会長の牧師の祈りと教会の多くの方がとりなし祈りを聞いてくださいました。神様は慈しみと哀れみで助けてくださいました。“今は可能性がありません。生きても足を切断して週3,4回血液透析しなければなりません。”有名な大学病院の医師たちが言われたのは失言になりました。透析もしなくて就職して熱心に主と教会を支え奉仕するように全能なる神様は私の体を治してくださいました。倒れて1年ぶりに奇跡的に健康が回復して再び稼業に精を出しました。そして以前と違って世の楽しむの代わりに神様に捧げる献身と神霊な楽しむと幸せを感じて全て感謝するようになりました。

“わたしはあなたの背きを雲のように／罪を霧のように吹き払った。わたしに立ち帰れ、わたしはあなたを贖った。”（イザヤ44：22） お前の主なる神はお前のただ中におられ／勇士であって勝利を与えられる。主はお前のゆえに喜び楽しみ／愛によってお前を新たにし／お前のゆえに喜びの歌をもって楽しまれる。（ゼファニヤ書3：17）毎日暗唱する恵みの御言葉であり神様に対する感謝の信仰告白です。

わたしは今病院に入院している患者と家族に福音を伝える奉仕をしています。体で習得したわたしの体験が彼らに慰めになり勇気になるのを願いながら、神様の恵みで癒され主を受け入れる福になることを祈り伝道をしています。神様が大胆さと能力を下さって使命を担えることが出来て感謝します。

神様が与えた時間をイエスキリストを愛して生きます。先週員職礼拝で受けた“信じる者が求めるのは忠誠である。”という御言葉に従順して一番大変なことでも熱心に教会と聖徒のため仕えます。そして、教会の一千教会の設立と百万聖徒のビジョンのため人々を主に導きます。私の努力と祈りの実りがないように見えても不平しなくて私の愛が無駄にならないようにただ希望の中で福音の種を植えよく育てます。“ わたしは、神に近くあることを幸いとし／主なる神に避けどころを置く。わたしは御業をことごとく語り伝えよう。”（詩篇73：28）

足りない私を子供として選んでくださったこと感謝します。、 “見よ、わたしは火をもってお前を練るが／銀としてではない。わたしは苦しみの炉でお前を試みる。”（イザヤ48：10）この御言葉のように導いてくださった神様に感謝の賛美を捧げ山を動くほど大きい信仰を下さる事を求める祈りをします。聖徒のためいつも恵みの説教と慰めと希望を与える当会長牧師に感謝します。私の証を多くの方々に慰めと勇気になり挑戦となって信仰と希望が成長し神様の恵みと愛を体験するのを願います。

［信仰コラム］ 私の私のことと神様の恩

″しかし神の恵みによって、わたしは今日あるを得ているのである。そして、わたしに賜った神の恵みはむだにならず、むしろ、わたしは彼らの中のだれよりも多く働いてきた。しかしそれは、わたし自身ではなく、わたしと共にあった神の恵みである″(コリント人への第一の手紙 15:10)

人の一生で最大の事件は、イエス・キリストを信じるようになったのです。 それにより変化と経験を凌駕することはありません。 そうするためにキリスト人は自分が経験した変化が何か、その変化がどのようにして起きているのかを話しことになります。 その変化と経験を圧縮した表現が″私の私のものは神の恩になったものです。″という言葉です。 この言葉は使徒パウロの証言であるだけでなく、すべてのキリスト人の告白であり、証言です。 まず、″私の私のこと″という言葉に含蓄されている奥深い意味をご覧ください。この言葉は自分に起きた変化を示す言葉です。 ’今の私’は、以前の’出てない。’という自己認識を示す言葉です。 使徒パウロの’移転’と’今’を比較して見れば、神様について、人間の救援についてそしてキリスト教会に対して彼が持った認識と態度がとても違います。 今、パウロは″天地を作った神様は一人っ子イエス・キリストを送って人間の罪を贖罪するようにし、これを信じるすべての者に救いを与える。″とはっきり知って信じるようになりました。 以前はキリスト教会を破壊し、キリスト教徒を除去するものが神様に仕えることだと知って実践したが、今は教会を設立し、教会の働き手を養育するのが神様に仕えることだと知って実践するようになりました。

皆さんもキリストを信じる’以前の私’は神様を遠く離れていながら時間を無駄遣いして滅亡に向かって行った者でした。 ところでイエス・キリストを信じた後の現在は、すべてのものが変わりました。 状況の変化をすべて包括する用語は’救援’という単語です。 ’今の私’は救援を得ました。 罪での救援、神様の怒りでの救援、律法の呪いでの救援、サタンの権勢での救援、死亡での救援を受けて、神様の子供がなりました。人生の意味と目的を知り、これに向けて生きていきます。 天国の望みと復活の望みを持って生きています。神様がくれる賞を期待しながら暮らしています。 コリントへの後書 5 枚 17 節には″だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。″と宣言しています。

次は、″神様の恩になったのだから″という言葉に含蓄された奥深い意味をご覧ください。

聖書には救援の真理を説明する重要な用語があります。’恩’という言葉がその中に一つです。 新約聖書では’恩’という言葉は圧倒的にイエス・キリストと関連して使用されました。 神様の恩は、イエスキリストの聖肉身と贖罪の死と勝利の復活によって与える贈り物です。 イエス・キリストの霊異な聖霊様の交通することを通じて私たちに与えられます。 パウロ使徒が″私の私のものは神の恩になったのだから″と表現したのは私が罪下賜されて義人になって永生を得て、神様の子供になったものが神様の恩になったという意味です。 私が神様の栄光のために、住んで主を嬉しいようにするために生きることも、天国と復活の望みを持って暮らせるようになったのも、主がくれる賞を受けようと主義ことに力を入れるのも、いずれも神様の恩になったということです。

″私の私のものは神の恩になったもの″を確実に悟った人に従う現象があります。 悟りの深さほど謙虚に神様を仕えるようになります。 神様の能力に深く依存することになります。 神様にいつもありがとうございます。 神様の恩を知らずに滅亡道で行く人を見るとき、残念なことで、気の毒にここは心を持って力を入れて福音を伝えることになります。 また、集まることを努めることになります。 聖徒をために自発的な奉仕、楽しい心の奉仕をすることになります。

皆さんは神様から受けた恩に対する自覚が日増しに加わって、いつも謙遜し、絶えず神様の能力に依存して、凡事に感謝して伝道に力を入れながら、、集まることを努めて奉仕に力を入れながら、生きていくことを望みます。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

恨みと不平を治める秘訣

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

我が心の中に侵透すれば力強い損失と苦痛と破壊を呼び入れる役目をするものなどがあります。それらが何でそして私たちがそれらを効果的に治める方法に対して多くの週間にわたってシリーズで調べています。 今日は恨みと不平を治める秘訣をよく見ます。 聖書は “油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。”（箴言 4:23）したし “怒りをおそくする者は勇士にまさり、自分の心を治める者は城を攻め取る者にまさる。”（箴言 16:32）としました。

先に、人が恨んで不平を言う理由を分析して見ます。

第一、欲求の不満によって恨みと不平が生じます。
第二、事物の否定的な面にとらわれすぎるから恨みと不平が生じます。
第三、理解不足のため恨みと不平が生じます。
あるお父さんに息子二人がいたがすえ子がお父さんに自分の分け前の財産をくれと頼んで結局そのお金を持って遠い国に離れ発ちました。 虚浪放蕩した生活をしたのでお金がすぐなくなって彼は無一物になりました。 ところで弱り目に祟り目で大きい凶年が入りました。 糊口之策で得た職業が野で豚飼う事であったが彼は相変らず飢えました。 彼は力落としと自暴自棄を踏んで起きてお父さんの家に帰りました。 お父さんは帰って来た息子のために宴をもうけました。 一日中に畑で働いて帰って来た長男は財産を蕩盡して帰って来た弟のためにお父さんが宴を施しているということが分かりました。 長男は怒って家に入らなかったです。 お父さんが走って出て恨んで不平を言う長男に言いました。 “子よ、あなたはいつもわたしと一緒にいるし、またわたしのものは全部あなたのものだ。 しかし、このあなたの弟は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから、喜び祝うのはあたりまえである”
長男の恨みと不平はお父さんに対する理解不足から始まったのでした。
第四、神様が面倒を見なくて自分が困境に処するようになったと思うから恨みと不平が生じます。

次は、恨みと不平がもたらす悪い結果に対してよく見ます。

第一、恨みと不平は状況をもっと悪化させます。
イスラエル民の 40 年間荒野生活に対する記録は恨みと不平が状況をもっと悪化させるという事実を申し分ないように如実するように現わしています。 シナイ山を立ち発って荒野の道に行きながらイスラエル民が不平を言うと神様が彼らに火災を起こそうと陣営一方終りを焼き始めました。 彼らはいかしてくれと言ってモセに叫んだしモセが神様に祈ると火がすぐ消えました。 またイスラエル民がガナアン地を探って来た十二人の中に十人の言葉をきいて神様とモセに向けて恨んで不平を言いました。神様が彼らに斥候がその地を探知した 40 日に 1 年を掛けて 40 年間荒野で放浪するように処罰しました。 これにより荒野の道に行きながらイスラエル民が神様とモセを恨むのを “どうして私たちをエジプトから導き出して荒野で死んでたまらないようにしますか? 食べ物もなくて水もないから、私たちはこのむちゃくちゃな食べ物が非常に嫌いです。” としました。 神様が民の中に火のへびを送ってかむようになさるので死亡者が多かったです。 このようにイスラエル民は恨みと不平をした後彼らの状態がずっと悪くなりました。
第二、恨みと不平は否定的で悲観的な精神状態を病み付き化して曲がった人格にならせます。
第三、恨みと不平は肉体の健康をこわします。
第四、恨んで不平を言えば良い隣りを失くします。
五番目、恨みと不平は神様をさびしくします。
六番目、恨みと不平は神様を激怒させます。
“聖書に言うが それについて、こう言われている、「きょう、み声を聞いたなら、神にそむいた時のように、あなたがたの心を、かたくなにしてはいけない」。すると、聞いたのにそむいたのは、だれであったのか。モーセに率いられて、エジプトから出て行ったすべての人々ではなかったか。また、四十年の間、神がいきどおられたのはだれに対してであったか。罪を犯して、その死かばねを荒野にさらした者たちに対してではなかったか。”（ヘブル人への手紙, 3:15～17）としました。 神様を激怒させて幸福もたうことを期待することができないです。神様を向けて恨んで不平を言うより愚鈍な事はないです。

終りに、恨みと不平を治める方法に関してよく見ます。

第一、不満と不平をせずに挑戦と発展の機会になるようにしてください。
不満はこれを処理する態度にしたがって創造的なアイディアを得るきっかけになります。 もし人々が馬や馬車に満足したら自動車や汽車、そして飛行機は作られなかったはずです。 どんな種類のどんな改良も現在あることに対する不満を創造的活動の動機にした人々によって成ったのです。
第二、現在よりもっと難しかった時代の経験を思い出してください。
第三、自分よりもっと難しい状態にある人々を思ってください、
第四、問題になる事物に対して神様のお言葉に根拠して肯定的意味を付与してください。
ガナアン地を探知した 十二人の斥候の中に十人とヨシュアとガルレブは全然違った報告をしました。 十人は報告するのを “そして彼らはその探った地のことを、イスラエルの人々に悪く言いふらして言った、「わたしたちが行き巡って探った地は、そこに住む者を滅ぼす地です。またその所でわたしたちが見た民はみな背の高い人々です。わたしたちはまたそこで、ネピリムから出たアナクの子孫ネピリムを見ました。わたしたちには自分が、いなごのように思われ、また彼らにも、そう見えたに違いありません（民１３：３２～３３）” としました。 その言葉をきいたイスラエル全会衆の民がみな声をあげて叫び、民はその夜、泣き明かした。ヨシュアとガルレブはイスラエル子孫の全会衆に言いました。 “わたしたちが行き巡って探った地は非常に良い地です。もし、主が良しとされるならば、わたしたちをその地に導いて行って、それをわたしたちにくださるでしょう。それは乳と蜜の流れている地です。 ただ、主にそむいてはなりません。またその地の民を恐れてはなりません。彼らはわたしたちの食い物にすぎません。彼らを守る者は取り除かれます。主がわたしたちと共におられますから、彼らを恐れてはなりません」。” その後に体験した現実は彼らが問題に対して意味を付与したそのままになりました。 否定的な意味付与をして恨み不平を言った者は荒野で亡びました。 一方に神様のお言葉に根拠して肯定的な意味を付与したヨシュアとガルレブはガナアンを占領しました。
五番目、神様の助けを信じてあらかじめ感謝してください。 感謝には後続感謝と先行感謝があります。
後続感謝は受けた恵みに対して感謝するのです。
先行感謝は信仰で期待してあらかじめ感謝いたすのです。 イエス様がなさった先行感謝場面が聖書に記録されています。 エルサレムから２キロほどなるベダニ村にナザロと彼の妹マルダとマリアが住んでいました。 ある日、ナザロが病勢が悪い病気になってたまらなかったです。 イエス様がベダニに到着した時はナザロが死んでから四日が経ったし葬礼が終わった後でした。 イエス様がナザロの墓にいらっしゃいました。 そして墓を阻んでおいた石を移しておきなさいと指示しました。 “「石を取りのけなさい」。死んだラザロの姉妹マルタが言った、「主よ、もう臭くなっております。四日もたっていますから」イエスは彼女に言われた、「もし信じるなら神の栄光を見るであろうと、あなたに言ったではないか」。 人々は石を取りのけた。すると、イエスは目を天にむけて言われた、「父よ、わたしの願いをお聞き下さったことを感謝します。あなたがいつでもわたしの願いを聞きいれて下さることを、よく知っています。しかし、こう申しますのは、そばに立っている人々に、あなたがわたしをつかわされたことを、信じさせるためであります」。こう言いながら、大声で「ラザロよ、出てきなさい」と呼ばわれた。 すると、死人は手足を布でまかれ、顔も顔おおいで包まれたまま、出てきた。 イエスは人々に言われた、” イエス様が祈ったことはナザロがまた生き返えることに対する先行的感謝です。 皆さんが神様の助けを信じる信仰で ないことをあることのように呼びながら感謝したら恨み不平が心に入って来ることができないだろう。 そして神様が皆さんの先行感謝を恥ずかしくないように働きしてくださるでしょう。
六番目、なによりも救いをもらったことによっていつも感謝してください。
感激する心を持てば神様の仕事をする時に恨み不平なしに楽しく献身するようになります。
今日の本文には “また、ある者たちがつぶやいたように、つぶやいてはならない。つぶやいた者は、「死の使」に滅ぼされた。これらの事が彼らに起ったのは、他に対する警告としてであって、それが書かれたのは、世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである。”（コリント人への第一の手紙, 10:10,11）しました。 イスラエル民は当面したちょっとした困難のため重大な恵みを忘却しました。 彼らがエジプトにしもべの時のさんたんな奴隷生活で神様の能力で救いをもらった恵みを考えて見たら現実の困難のため恨んで不平を言うことはいくら軽挙妄動した行動なのか分からないです。だけでなく現在の行く道が険しくて困難があっても彼らは神様がお許し願えた乳と蜂蜜が流れるガナアン地に向かって行っているのです。だから途中に経験する困難を恨んで不平を言う理由が全然ないです。

聖徒の皆さん自分をよく見てください。 罪悪に縛られて暮して悪魔の奴隷としている途中遂に 悪魔とともに永遠に燃える火の池に投げられる運命を脱することができない者である。そういう私たちが神様の大きい恵みをこうむってあがないを受けた民になったし天国を向けて進むようになりました。 だから皆さんは救いをもらった感激を持って生きて行くので皆さんの心にはいつも感謝がいっぱいになって恨みと不平の立ち入る余地がないように願いします。